

洛友会会報

京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛友会

早春随想

京大名譽教授・工博
大正6年卒 松田長三郎

★今日はお彼岸の中日であるが、仏教では祖先を思い、縁故のあった故人を偲んで感謝し、その冥福を祈る聖なる日であって、お彼岸中は各寺々でお彼岸の法要が厳修されている。私共が祖先を思う時、更にさかのぼって人類の発祥或は更に生物の発生・進化に思い及ぶことは自然であって、最近ではこれらに対する研究が各方面から真剣に考えられて来ているし、遺伝子の研究など、生命現象など神秘の謎を解く鍵を探し求めている現状といわれている。

★物理学で取り扱かう現象は、ある空間を占めている物質間の作用・変化を観察し、推論して行くが、自然に存在する長さの最大と最小は、宇宙の半径 10^{26} 光年(約 10^{26} m)、素粒子のひろがり、或は電子の半径 2.8178×10^{-15} mである。また時間からいえば、宇宙の年令は 10^{10} 年(百億) ($10 \times$

10^9 秒)、地球の年令は 6×10^9 年(45億5千万年)といわれるし、素粒子の寿命は 10^{-15} 秒のものもある。最小の空間のひろがり、即ち素粒子のひろがりを光が通過するに要する時間は、 10^{-15} 秒で、現象のおこる最小の時間間隔といえる。つまり物理現象は、宇宙の大から素粒子の小に至るひろがりの中で、多種多様な現象が生起・消滅しているのである。これらを統一的に理解しようとして、統一的な小教のわくで規制しようとする努力されている。所謂、マクロの世界では、ニュートン力学が適用されるし、ミクロの世界では量子力学が適用限界をあらわすものと考えられている。上述した時間・空間のひろがり、つまり 10^{-15} m以下および 10^{26} m以上のひろがり、また時間としては 10^{-15} 秒以下および 10^{10} 秒以上の世界は、現在の物理学では未知の

世界とされている。宇宙間に生起する森羅万象は、物質界は勿論、精神・心靈界においても未知だらけであって、たとえば重力や電気力・磁気力が如何にして発生するか、こういう基本的な問題に対しても我々には明快な解答はむづかしい。こういう問題に対して、誰かにお願ひして「電気評論」誌に書いてもらいたいと思っている。

★現代物理学は今世紀初頭から、華々しく展開して来ている。即ち、プランクの量子論、アインシュタインの相対論を初め、原子論・素粒子論・波動力学・量子力学等、みのもり多い成果が挙げられて来たが、これらの画期的な理論は必ずしも発表当時から、順調に認められたとはいえない。こういう画期的な変革は、根強く信じられている従来の伝統的概念の殻を破るには、よほどの確信と勇氣のある学者によってなされて来たものである。

★時間と空間―時空の問題は、昔から哲学や宗教の問題であり、物理学や一般科学の問題でもあって、むづかしい問題であるが、特別の人以外は何となく無意識に安易に考えて過しているが、時と永遠などについて考え及ぶと誠に息苦しいことである。

★私は宗教は何ですかと聞かれると、仏教ですと答えるが、普通の

信仰心は持っているつもりであり、信心の心を篤くしたいと念願するものであるが、深遠な仏教はよく判らない。仏教には「劫」(ごう又はこう)という時の単位ともいうべきものがある。何かで読んだらう覚えて、記憶にまちがいがあるかも知れぬが、これは四十里四方と、上下もある鉄で造られた城の中に、芥子粒が一杯詰っている。この芥子粒を百年に一粒づつ取り出して、それが全くなくなるまでの歳月を一劫という(一芥城劫)。また四十里四方、上下のある大きな岩を百年に一度、天女がおりて来て、その柔かい羽衣がこの岩を撫で、全部磨りへつて了うまでの年月(一抔石劫)ともいわれている。これは要するに私共人間の想像を絶する、それこそ気の遠くなるような時の間が一劫である。この他まだ幾らも考え得るであろうが、要するに人間の推理・思索・想像の限りを尽した人間の考え得る極限的な心象の限界とも考え得るであろう。兎に角、仏教ではお釈迦さまが既に約二千五百年前に、このような途轍もない壮大悠久の時の流れを考えられていたことは、全く驚嘆の他はない。地球の生成は四〇数億年以前、生物の発生は三〇数億年ともいわれているが、仏教では世界の成立から破滅に至る間を四期(四

劫)に分けている(広辭苑)。まず、世界が成立して人間が住み、地獄から色界天までが成立する期間を成劫、人類が世界に安穩に存在する期間を住劫、世界の壊滅するまでの期間を壞劫、世界の空虚となるに至る期間を空劫といわれ、一切が無になる。ここにおいて世界とか、空とか、無ということになると、またいろいろと疑念が湧いてもしよう。

★抽象の世界・心象の世界から、現実の世界に戻ろう。去る3月10日、待望の岡山―博多の新幹線が開通して、ここに東京―博多間一、一七六・五km、運転時間6時間56分の超特急が運転を開始した。狭い国土(しかし細長い)で、これだけの超高速は車体の動揺は相当にあるが、偉とするに足る。長距離鉄道には、米大陸横断鉄道、シベリア鉄道、欧亜連絡国際列車等があるが、とにかく新幹線は一つのモデルを提供し、世界の賞讃を博した。「そんなに急いでどこに行く」とひにくられてはいるが、世は今や正にスピード時代である。国鉄では更に時速五〇〇kmのリニアモーター運転が研究されているし、飛行機ではヨーロッパ向けには北極廻り、シベリヤ経由、南廻りの他、近くは北京経由、カラコルムの上空を経てヨーロッパに達せんとしているし、か

ねてから英仏共同で研究して来たコンコルド(音速の二倍)は、来夏頃には欧米を三時間で繋ぐといわれて、欧米間も日帰りができるといふ誠な世の中になり、世界は時間的には益々狭くなって来たし、更にロケット輸送も考えられている。斯くして世界の交通運輸は愈々快速軽便になり、各国人の来往も頻繁になって、政治・外交・貿易・軍事等、益々複雑になってくる。願わくはこれ等が戦争や破壊でなしに、人類の平和と繁栄・福祉に貢献してほしいものである。

★飛行機などの目まぐるしい輸送に引き替え、船旅はゆったりとした快適の旅行である。金があり、時間的余裕があり、健康に恵まれ、社会的・家庭的の係累から暫し免れることのできる人にとっては、これ程のんびりした愉快な旅はないであろう。最近日本(神戸・横浜)に寄港した世界最大の豪華客船クイーン・エリザベスII号は、正にその代表的な船旅であろう。総トン数六六〇、〇〇〇トン、乗客約一、四〇〇人、船員は同数。九十二日間の世界一周の旅で、この船賃は最高二、六〇〇万円、最低一五〇万円。日本人としては、京都の夫妻の方だけと報ぜられた。今頃はパナマ運河通過の頃(三月二十六日頃)であろう

が、同船は船幅三一・五m、同運河の最も狭い所は三三mというから、六六、〇〇〇トンの巨体を岸まで僅かに一・五mしかないという難行の放れ業をしなければならぬというから、船長や機関長などの御苦労はさこそと想像される。一九三〇年頃、私が初めてヨーロッパへ行った時は、当時の郵船の最大の欧州航路の客船靖国丸(二二、〇〇〇トン)に乗ったが、神戸ーマルセイユ間、三十四日、この一等運賃九六〇円(文部省在外研究員には二割の割引があった)。時、偶々十一月、印度洋は油を流したような静穏な、誠に快適な船旅であった。大西洋は当時の最快速船、ドイツのオイローパ号(五〇、〇〇〇トン)で、流石に巨大な船であったが(トン数からいえば、クイーンメリー号(八〇、〇〇〇トン)、少しおくれは仏のノルマンディー号(八三、〇〇〇トン)があった)、北大西洋は大分荒れた。山なす怒濤は船体が割れるかと思う許り(これは少し大げさではあるが)。米国からの帰航は、やはり郵船の太平洋航路の豪華船竜田丸(一八、〇〇〇トン)で、甲板上で花火を打ち上げたりしたサヨナラ・パーティーは楽しい思い出であるが、船酔いさえなければ、船旅は最も贅沢な旅行であろう。

★物ごとに行き届かせることはむずかしいものであるが、結局は誠と愛にあると思う。先般近畿地方発明センターの創立三〇周年に際し、五〇〇以上の関係者各位に、時節柄ささやかな記念品をお送りしたが、その中で松下幸之助さんは、多年の功績を讃え、記念品は

植物栽培のオートメーション

昭和十年卒 有馬敏彦
横河電機機

昨年秋は、計測制御機器の展示会と学術講演会が西独ジュッセルドルフ市と米国ニューヨーク市で共に世界第一級の規模で開催された。この二つの展示会を見学するため一カ月余りの予定で旅行の計画をした。実はこの十数年欧米へは社用旅行が多く、十六回も出ているので今回は社用を持たずにこまかな時間にはばられない自由な旅行にしたいと思ひ、老妻を伴うことにした。しかし、卒業以来四〇年も技術屋生活を過していると、技術的な場所や設備を訪ねることがスケジュールの中に出てきてしまつて、折角の老妻へのサービス旅行も点数を下げる結果になつてしまった。

この二、三年筆者が興味をもつて調査して来ているテーマの一つ

長く使わせて頂くといった誠に丁寧な心にしみるお祝いのお手紙を頃いて感銘したが、こういう些細なことにもまで行き届いた配慮をされる誠意を思い、さればこそあれだけの大をなされたものと、その人柄を思んだ次第である。(昭和50年3月21日)

件とうまく適合する品種を選ぶことが経験的に行われて来た。もちろん農業は広く発展しているが、主として動植物そのものに関する農学で、環境そのものを制御して最適条件を保とうとする制御工学的考察と手段を確立しようという工学への関心はまだ新しい分野である。過去の経験によるわれわれの常識は植物そのものに対して全く無知といわざるをえない。

植物栽培のプロセスを制御工学的の見地から見ると誠に面白い。化学工業のようなプロセスに馴れたわれわれには生物という対象は面白い。温度、湿度、日照度、養分、土壌、土中水分、風向風速等植物生長に関係する環境要素を如何に制御するかの研究がまずわれわれのテーマである。当然農業の一手法でなければならぬので、製品の生産性、コスト最少化、品質の適正化、プロセス操作の省力化と制御のテーマは多い。これ等を総合して実用化となるとなかなか複雑である。しかも将来の食糧問題を考えると、人口増加と日本の農地面積の狭さなどから、いつかは実用化と普及を考えざるを得ない技術のようである。

植物は生物であるから呼吸をするし、光を受けて炭酸ガスを取り、いわゆる炭素同化作用を行って自分の体を作り成長する。われ

われの用語で表現すると積分機構である。そしてある程度まで成長すると、刈りとして人間に利用されてこのプロセスは終わる。これは一つのバッチプロセスである。この形は全ての植物栽培の本質的な共通したものといえる。

一例を温度の制御について見ることにしよう。ホウレンソウという野菜は25℃位の範囲に保つと成長が最高で、播種から収穫まで三十一日あればよいそうである。このバッチプロセスは一年間に少くとも十一回は繰り返すことができることになる。生産性という点では、現在の春と秋の二期のことを考える五・五倍にあがるが、温度は最適値が上記の値ではあるが、この範囲を外れても特に重大なトラブルは発生しない。ただ積分性であるから三十一日が三十五日に延びるかも知れないというだけである。しかし、余りに大きく外れるとうまくない。ひどく低温になると死滅するだろうし、高温すぎるといわゆるヤケて枯れるだろうから、温度の瞬時値は危険な上下限制限の制御をする必要がある。バッチのサイクルの日数を一定にするには、上記のような範囲にあるように制御しなければならぬ。その方が生産と出荷の計画性が保たれることになる。したがって、制御動作は熱源のON/OFF方式でよく、化学プロセスで広く使われているPID制御の必要はない。

温度以外の諸要素の制御についても似たことがいえる。筆者の見た実験ではトマト、ナスのような果菜では上記のような最適制御を行うと、一本のトマトの木が五、六年も果実がなり続けて、その間毎日収穫ができるという。

身辺雑記

昭和二十一年九月卒業
姫の湯ホテル社長

阿部 鉄 郎

大学を卒業してから、もう二十九年になる。昭和二十一年九月といえ、終戦一年たったばかりの頃で、京都のまちはカーキ色のあの帽子をかぶった進駐軍の兵士たちが、やたらに目につく頃のことである。

その後、学校へは全くご無沙汰して居りますが、数年前毎日のように全学連かなんかが暴れまわって、テレビや新聞のニュースを賑わしておった頃、京都も他の大学に劣らず激しく騒いでおる様子だったので、どんなことになっておるかお気になったもので、旅行のスケジュールを一寸変更して、京都駅に下車し大学の様子を覗いて見る気になり、校門の前まで行って見たら、どこの大学にも

う。われわれの常識にないことである。この三月十五日に筆者等の卒業四〇周年同窓会を京都で開いた席で、この話を紹介した所、恩師松田先生が是非会報に書くようにとのことであり、また東京支部長の高木正君のすすめもあつたので一筆紹介の記を書くことにした。

見られるあのへんでこな下手くそな文字で、何やらかにやら書きなぐった看板みたいなものが、やたらに立てかけてありました。校内に入ると建物が増えたり、卒業の頃とはガラッと様子が変わっておりましたが、あの赤い煉瓦の教室と銀杏の双樹が変わらぬままだったので、ほっとして帰って来た日のことを思い出します。

その後はどうなっておるのでしょうか。先日、東北電力工務部次長をしておられる三上謹吾さんから洛友会の原稿を書くようにと、用紙を同封した一文を頂戴しました(もう一カ月以上前のことになりましたが)。内心ではお断わりしたか

ったのですが、三上さんは高等学校も同じだし、京都の三年も一緒に過し、また洛友会東北支部でも常にお世話になっているのだから「覚悟せざるを得まい」と観念してペンを取った次第であります。私は現在、東北の山の中、十和田湖の近くの湯瀬温泉で姫の湯ホテルという宿屋を経営しております。私の商売の宣伝をするわけではないのですが、湯瀬温泉は秋田と岩手の県境の秋田県側にある山の温泉で、那須火山帯に属しております。国鉄花輪線の湯瀬駅下車しますと、そこが湯瀬温泉で駅のホームから私の宿が見えます。

十月は紅葉の十和田湖周遊のお客様が大勢来られて、非幸に賑かな山峡の本当に東北の温泉らしい紅葉にすっぽりと囲まれた、小さいがきれいな品格のある温泉であります。

東北には京都の電気の同窓といつてもそう多くはおりません。洛友会東北支部の会員数は、新潟県を加え東北七県で大正十年卒業の先輩から昭和四十八年の卒業者まで、合計三十五名が総勢であります。

昭和四十三年の支部総会には、教室を代表して阪口君に仙台まで来ていただき(万博の前年でございます)から、万博会場の照明について、いろいろとお話をお聞きしました。同級の教授をお迎え出来たことは同級生として、何んとなく誇り高い気がしたものでした。二次会に三上君と三人で出かけ、パーで飲んだ事も思い出され、あの時、阪口君は殆ど飲まなかった事が思い出され、諸行無情が身に浸む年になって来たことを感ずる昨今であります。

旅館の主人の毎日の仕事といつても特別なことはないのですが、最近では旅館も家業ではないけない。企業経営でなければいけないとおっしゃる時代ですので、私もそう思っております。昔の宿屋の和服姿の旦那といったゆつたりした生活は出来ません。八時前には出勤、夕方おそく退社して来るといった時代であります。

私は社員一〇〇名たらずの社長ですので、未だ組織的に充分に動くという処まで参りません。何んでも自分から実践指導しなければならぬ立場であります。中小旅館の社長といえ、最近

では殆ど姿を消してしまいました
が、沢山の客車を引っぱってゴッ
ゴッゴッーと黒煙をあげながら、
坂道をあえぎあえぎ登って来る蒸
気機関車のようなもので、S・L
ファンの撮影対象にもならぬ風景
であります。何んとかして各車輛
毎にモーターを備えた電車の列車
にしたいもんだと日夜苦勞をして
おりますが、仲々そうも参らず弱
っております。

旅館の主人の大事な仕事は何ん
といつてもお客様によく接して、
お話を色々とお聞きして、
お客様の気持ちを知ることが一番
ですので、在社しておるかぎり夫
婦揃って、朝は必ずロビーに出
てお客様に朝のご挨拶を申しあげ、
お帰りには必ずお見送りを致す習
慣にしております。

お客様のお帰りは、朝八時頃か
ら十時頃までに集中しますので、
この時間は多忙で人手がいくらあ
っても足りない気がする時であり
ます。私のホテルは玄関で下足を
はきかえる昔風ですので、この時
間が殊のほか賑やかで多忙を構める
時です。毎朝「お早ようございま
す」とご挨拶を、「有難うござい
ました」とお見送りのご挨拶を
一〇〇回以上もくり返すのが、私
達夫婦の日課になっております。

最近では、下足を預りするホテ
ルが少なくなつて来たために、下

足札をよくしまい忘れて仲々見つ
からないことがあります。それで
も男のお客様はどれかのポケット
からわりに早く見つけますが、女
のお客様には大概ポケットがあり
ませんので探すのが大変です。殆
どの方はハンドバックかポストン
バックの外側のポケットをお探し
になります。

女の方というと非常に細心に準
備よくきちんとしており、男の方
は大ざっぱでぼつぱりしているよ
うに思われますが、玄関先の下足
札のことに關しては、どうも逆なよ
うに見えます。玄関先に来てあわ
てて札を探されるのが大部分女の
お客様であるのが、私にはどうも
ふにおちない点でございます。

妻のハンドバックの中に何が入
つておるか私はあまりよく知ら
なかつたのですが、下足札を探す
ためにバックの中味を全部出され
る方がたまたまございますので、
最近では大凡見当がつくようにな
りました。初めは手品の袋ではな
いかとびつくりしたものです。本
当にまあよくもあんなに沢山の物
が入つておるものだと。

旅館の朝はこんな具合にして漸
やく静かになり、午前十一時頃
は一段落します。

私のホテルでは、毎日十一時に
朝礼を行います。要員だけを残し
て全員大広間に集合しますが、七

分の一の公休日当る人、交替の
人などがありますので、朝礼に出
られる人は三十五名位です。最後
に社歌を斉唱して終えるのです
が。

指揮者が前に出てタクトを取つ
てリードする場合は、皆んなが大
変に気持ちよく大きな声で元気よ
く歌えるのですが、指揮者が公休
で司会者が一、二、三、ハイで歌
う時は、これがまた全くバラバラ
で声も小さく歌つたあとがすつき
り致しません。同じことを何年や
つていてもこんなことがくり返え
されますので、最近になってレコ
ードに吹き込み、レコードをかけ
て社歌斉唱ということにしました
ので、指揮者不在の問題もなくな
りましたが、心中なんとなく物た
りなさが感ぜられることは確かで
す。

こんなことで中小企業にとつて
のリーダーの力ということや、社
内の組織化の確立などを痛感して
おる今日この頃でございます。

第十二回らっきょう会

(洛京会)

恒例のらっきょう会(東京在住
昭和8、9、10、11年卒業者の
会)を二月二十日、新宿の「白川
郷」で開催しました。出席者は左

記二〇名、田舎料理を賞味しなが
ら、冬の一夜、半年振りに近況な
ど語り合いました。
出席者
蒲生、久保、田井、西山(昭八)
石川、河野、松井 (昭九)

昭和四十九年度

卒業生の就職・進学状況

京都大学教授 板谷良平
昭和二十八年卒

昭和四十九年度電気系三教室主
任の一人として、卒業生の就職等
の世話をしましたので、その状況
についてご報告致します。

石油危機に端を発し、物価狂乱
に引続く金融引締めと不況の浸透
のため、経済界には動乱の一年で
したが、幸いにも昨年度とそれ程
変わらぬ結果となりました。これ
偏に先輩諸兄の築かれた実績の賜
と感謝致しております。お蔭様で
卒業生(学部百十一名、修士五十
八名)のうち、進学者(修士進學
三十八名、博士進學五名)および
研究生等(十一名)以外は、それ
ぞれ別表に示すとおり就職して、
社会に巣立っていきましました。な
お、博士課程を学修したものにつ
いては、原研二名、電波研一名、
三菱一名で、また昭和四十九年度
中に京大助手となったものが三名

有馬、井上、大塚、大曲、塩沢
清水、高木 (昭十)
古池、杉本、直海、中川、福光
綿谷 (昭十一)
(中山記)

となつております。

昨年の特徴は大学院進學者
の割に入學者が少なかつたこと
で、大学院進學のために留年を選
んだ者が少なからずおりました。
不況の影響で、例年なら四月一
日入社が平均二十日程度遅ら
して入社式を行なう会社が目立つ
のも、今年の特徴でした。

昨年度は教室にとりましても異
常な事態に明け、新学期の開始は
五月からとなり、就職関係の業務
に關しましても先輩各位に多大の
御迷惑をおかけ致しましたが、幸
いにも教室関係者内外の多大の御
支援を得て、その後授業も円滑に
行われ、研究活動も復帰し、事の
発端となつた臨時職員問題も一応
の解決を得るに至りました。

最後に例年学生の採用につきご
援助戴いております洛友会会員諸

情報工学科は開設以来満五年となり、今年は二回目の卒業生を送り出すことになりました。最近、全国で情報工学あるいは科学系の学科が相ついで新設され、かなりの数にのぼり、昨年には理工系情

報学科協議会（会長清野武教授）も結成されましたが、卒業生を送り出している所は、まだ教える程しかありません。情報工学を修めた学生が実社会でどのように迎えられるか明らかではありませ

昭和四十九年度 情報工学科卒業生の就職・進学状況

京都大学教授 大野 豊
昭和四十九年度主任

種別	学部	大学院 修士	就 職 先
官庁, 大学, 研究所	1	4	警察庁, 京大, 神大, 徳島大, 電力中研
通 信, 放 送	2	11	電々公社, 国際電々, NHK
電 力, ガ ス	8	3	関西, 中部, 中国, 四国, 九州, 北 陸各電力会社
交 通, 運 輸	6	0	国鉄, 近鉄, 阪急, 京阪, 日本航空
交 通, 運 輸	11	14	日立, 三菱, 東芝
強 電, メーカ-	1	1	安川電, 富士電
弱 電, メーカ-	14	6	日電, 富士通, 松下, シャープ, 沖 日本IBM, 日本無線, パイオニヤ
電 線 工 業	6	4	住友, 古河, 日立, 昭和, 大日本
製 鉄 工 業	1	5	新日本, 川鉄, 日本鋼管
機 械, 造 船	5	2	三菱重工, 川崎重工, 日立造, 住友 重機
自 動 車 工 業	2	1	トヨタ, いすゞ, 日本電装
そ の 他	7	0	三菱油化, 不二越, 住友商事, ミノ ルタ, 帝人, 大和製衡
進 学	38	5	京大
研 究 生 等	9	2	
合 計	111	58	

兄に厚く御礼申し上げるとともに、教室の異常事態の解決につきまして、賜りました暖かい御支援に深く感謝致します。

願ひ申し上げます。就職者（順不同）
東京芝浦電気一名、富士通二名、日立製作所一名、三菱電気一名、新日本製鉄一名、日本電信電話公社一名、日本IBM一名、宇宙開

んが、教室主任として学生の就職の世話をした印象では、単に計算機の専門家というより、もっと広くシステム工学、制御工学、数理工学などの分野もカバーしているものと各企業では期待しているように思われました。わが教室から卒業した学生諸君が、これらの期待にこたえられるかどうか、今後見まもりたいと思います。
さて、今年の就職・進学の状況ですが、残念ながら卒業の特別研究を行うための条件を満たさない学生が十四名もおり、卒業できる学生の数が少なく、そのうち大学院進学者が十七名おりますので、実際に就職した学生は九名（内一名は前年度学生）にすぎません。情報工学は新しい学科ですので、学生に対してけじめをはっきりさせただけで、特にきびしくしたというわけではありません。就職した学生の内わけは次のようですが、折角求人多数の会社などから来られたのですが、御期待にそい得なかつたことは残念に思います。毎年このようなことはないと思ひますので、今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

発事業団一名
進学者

4月号 電気評論 定価 400円 送料 28円

特集・水力発電所の新しい保守管理

内容目次

- 特集1. 水力発電所における設計, 建設, 運転の最近の動向..... 東京電力(株)
 - 2. 水力発電所の新しい保守管理..... 中部電力(株)
 - 3. 水力発電所の遠方監視制御と問題点..... 関西電力(株)
 - 4. ダム操作の高度化について..... 電源開発(株)
 - ▲沼原発電所用水位計について (圧力タイプ水位計の開発)..... 電源開発(株)
 - ▲オプトエレクトロニクス..... (株)日立製作所
 - ▲鹿島火力1000MWユニットの概要..... 東京電力(株)
 - ▲SFガス複合開閉装置について..... 中部電力(株)
- 以上の外【シリーズ】【海外文献】【解説】等

株式会社 電気評論社

本社 京都市左京区田中大堰町49
〒600 京都 (075) 701-2582

京大大学院 十七名

昭和五十年度 洛友会総会通知

一、日時

六月七日(土) 午後三時より受付開始

二、会場

国際観光「八芳園」

東京都港区芝白金台町一の一五二

電話(〇三)四四三三一一(代)

三、日程

東京支部総会 午後四時より五時
及び総会 午後五時より

懇親会 午後七時頃

四、会費

会員 一、五〇〇円

同 伴 者 五〇〇円

昭和五十年卒業生 無 料

会費は、別紙総会用振替紙にてお払込み下さい。
なお、これをもって総会出席通知に代えますので、御
出席の方は五月十五日までに到着するよう御願ひ致し
ます。
本会合には御家族同伴を歓迎することになっておりま
すので、多数お申込み下さい。

洛友会常任役員会

議事に就いて

去る二月八日に京都に於て常任
役員会を開き、昭和五十年度洛友
会総会に於て議決すべき重要課題
に就いて、予め検討論議されまし
たので、その結果を御報告致しま
す。

出席者

- 名誉教授 松田長三郎
- 副会長 林 千博
- 東京支部長 高木 正
- 関西支部長 上西 亮二
- 四国支部長 阿部 要
- 東北支部 三国文治郎
- 中部支部 古田 久一
- 九州支部 深町 藤吉
- 幹事 内田 幸夫
- 山本 茂雄
- 大谷 泰之
- 田中 哲郎
- 近藤 文治
- 高木 俊宜
- 木村 盤根
- 北野 山人

○会費の値上げに就いて
昨年(昭和四十九年)に会費を
値上げしたばかりであるのに、
過去一年間の収支決算より見る
と印刷費、紙代の高騰と、会費
納入率が予定の如く行かず赤字
となるので、再び会費の値上げ

にふみ切らざるを得ないことと
なりました。その結果、
本部会費は従来一年間一、七〇
〇円であったが二、三〇〇円に
値上げする。支部会費はすえ置
き(七〇〇円)とする。
会費の値上げに就いては、来る
六月七日の総会に於て、最終的
には御審議願うことになってお
ります。会員各位には、御出費
多端の折柄、誠に恐縮ですが、
何卒事情御諒承の上、御協力賜
わるよう御願ひ申し上げます。

○会費納入率の向上に就いて
現在、会費納入率は約63%であ
ります。これを70%位にまで向
上するため、各支部長に御願ひ
し、具体的方法を御検討、御実
施願うことになりました。会費
未納の方の氏名を通知し、支部
長より御督促願うことになりま
した。各位の御協力を御願ひ致
します。

○一方、名簿・会報の紙質を落し
節減を図ると共に、会報を従来、
年六回発行しましたが、これを
四回に減らし節減する。また、
郵送代を節約するため、従来会
員の自宅宛郵送しましたが、十
名以上の会員の勤められている
会社等には一括して集中発送を
試みる。この場合、代表の方を
どなたに御願ひするかに就いて
は、各支部長に御検討頂き、決

定願うことに致したいと存じま
す。代表に当たった方、或は御世
話を願う庶務係の方々には御迷
惑と存じますが、協力を御願ひ
します。また、会報の新年号に
は、謹賀新年欄を設け収入の一
助とする案が出ましたので、検
討実施したいと考えておりま
す。

編集後記

陽春の好時節を迎えましたが、
不景気風が吹き荒れ厳しい世相と
なりました。此の中で、再び会費
の値上げにふみ切らねばならず、
来る六月七日の総会に於て御審議
願うことになりました。

会報も従来隔月発行年六回であ
ったのを四回に減らし経費の節減
を図ると共に、原稿の蒐集に就
ては、各支部長に御願ひし、内容の
充実を図りたいと考えて居りま
す。会員各位の御協力を御願ひを
御願ひいたします。

一会員の方より、名簿の勤務先
別の役職記事が不正確であるとの
アドバイスを頂きました。このこ
とに就ては、支部長と御相談の
上、各社の担当者を決めて頂き、
一層正確なものに致し度いと考
えて居ります。

(幹事山本記)

正 誤 表

会員名簿訂正のお願い

昭和50年 1 月 20 日以後

頁	氏 名	現 在	頁	氏 名	現 在
45	上 林 明	京阪企業(株) (06-951-3271)	149	小 林 芳 樹	319-12日立市石名坂町161
107	岡 熙	茨木市東太田1丁目3番932号 (0726-27-6108)	145	大 畑 恵 一	228 神奈川座間市栗原778-1 座間東原住宅8-821
65	井 上 武	中国電力総合企画室 (0822-41-0211)	95	山 崎 泰 助	新日本製鉄大分製鉄所設備部 870-01大分市明野南町N216-25 (0975-56-3222)
103	瀬 川 嘉 一	川鉄計量器	87	東 松 孝 臣	(075-791-2680)
76	坂 井 利 之	(0726-95-6510)	136	矢 内 銀次郎	143 東京都大田区南馬込3-35-3-201
143	伊 藤 雅 之	183 府中市新町2丁目14-13	121	尾 形 文 夫	316 日立市西成沢町4-7-6 (0294-35-6507)
155	川 合 誠	日本電々公社横須賀電気通信研究所 236 横浜市金沢区釜利谷町4622-3 電々公社阿王ヶ台独身寮	84	美 間 敬 之	電々公社武蔵野電気通信研究所複 合交換研究部(0422-59-2803) 東京都港区元麻布2丁目7-27 (03-446-2444)
148	苗 村 省 平	231 横浜市中区海岸通り4丁目23 公園住宅502号	144	岸 本 哲 司	641 和歌山市関戸1-4-4住金 住宅343号
118	関 清 三	238-03 横須賀市林2丁目1-3 電々林社宅5-208(0468-56-3243)	127	堀 内 肇	488 愛知県尾張旭市平子町320 松下電工旭第二松福荘311
99	小笠原 啓 峰	4204 BUTYGRNUT HILL, TROY MICH 48084 U.S.A	131	亀 山 卓 郎	大阪市平野区背戸町2丁目-16 -4
68	山 田 定 輝	メルコムビジネス	165	三 木 理 志	569 大阪府高槻市安岡寺町2-6 -13
99	八 田 昌 和	日新電機(株)電力機器本部製造部次 長	70	入間田 泰	新菱電設(株)
133	白須賀 督 行	639-11 大和郡山市小泉町1086-1 130	68	古 川 満智雄	緑邦産業(株)
161	中 嶋 稔	674 明石市魚住町清水222-1 鈴谷寮内	89	塩 路 孝 夫	新日本製鉄堺製鉄所設備部長 (0722-33-1131) 590 堺市中三国ヶ丘町6丁目1新 日鉄社宅336 (0722-21-6651)
147	桑 原 耕 一	576大阪府交野市私部186-4 (0720-92-6146)	148	飯 山 恵 一	573 枚方市楠葉花園町5-4-404 (0720-51-6895)
120	中牟田 正 造	350-13 埼玉県狭山市富士見2丁 目25-22	135	志 賀 正	電々公社横浜都市管理部 (045-651-8231) 156 東京都世田谷区桜3-14-26 (03-429-8654)
166	山 本 喜 一	228 神奈川県座間市栗原742-56	91	大 塚 滋	国鉄本社技術開発室計画主幹 (03-212-6311)
47	矢 野 正 巳	能美防災工業(株)	115	安 藤 順 夫	319-14日立市日高町3丁目250 日 高テラスA-2 (0294-42-2672)
142	牧 野 誼	松下通信工業(株)データ制御事業部 第二技術部第三設計室	114	折 口 克 明	283 千葉県東金市道庭364-41
85	立 川 昭 三	日立製作所機電第一事業本部産業 技術本部長 270-01千葉県市川市 行徳駅前1丁目10-12	87	門 元 啓 五	川崎製鉄水島製鉄所 710 倉敷市中庄団地11-2
129	安 野 喜 剛	604 京都市中京区新京極六角東	186	広 瀬 修 藏	607 京都市東山区山科安朱東海道 町13-8
124	小 淵 洋 一	606 京都市左京区岩倉中在地町58 村松団地20-1	153	村 瀬 克 実	188 東京都保谷市東伏見1-13-13 たつみ荘18
154	大 平 真 敏	日本電装生産技術研究1-7課設 計課 474 愛知県大府市横根町名高7-3 日本電装大府社宅334号室	156	浜 田 勝 義	電々公社水戸電報電話第三線路宅 内線 309-17茨城県西茨城郡友部町橋爪 字八幡下353-4 電々友部寮
57	西 村 利 夫	814 福岡市西区大字原284-6	75	井 上 堯	関電興業(株)原子力部 666-01川西市大和西1丁目59-4 (0727-94-3004)
107	北 村 哲 夫	三菱重工(株)原子力技術部軽水炉 技術課 (03-212-3111) 236 横浜市金沢区富岡町895-67 (042-772-5177)	160	荒 木 伸 夫	電々公社武蔵野電気通信研究所 198 青梅市根ヶ谷2-237 電々青梅独身寮
159	山 地 幸 司	四国電力中央給電指令所員 761-01 高松市屋島西町1420 四 電渦元アパート404	161	谷 井 純	227 横浜市緑区美しヶ丘2-18-3 古河電工美しヶ丘北寮
12	長 尾 真	(0720-43-0933)	153	鉄 沢 義 博	156 東京都世田谷区舟橋5-1-8 (03-302-9942)
106	〃	京都大学工学部教授			
153	藤 井 有 蔵	関西電力 919-12 福井県三方郡 美浜町丹生関電社宅			

頁	氏名	現在	頁	氏名	現在
	中嶋 稔	三菱重工(株)明石製鉄所 674 明石市魚住町清水221-1 鈴 谷寮528(07894-2-0386)		山内 孝	191 東京都日野市多摩平3-27 富士通フナック日野寮 (0425-83-9170)
	西 亨	611 宇治市南陵町1丁目1-289 (0774-23-4881)	163	青木 孝 充	大学院(東大) 124 東京都葛飾区堀切7-3-10 森川荘3
	原田 憲 作	448 刈谷市天王町7-12 日本電 装清明寮		覚 埜 高 音	251 藤沢市藤沢3-4-22 三菱電機第4花の木寮 (0466-25-5356)
	前田 辰 夫	241 横浜市旭区南希望ヶ丘133 N KK希望ヶ丘寮B-412		外 山 毅	573 枚方市津田4617-403 (0720-58-2243)
	武藤 明 則	930 富山市四ツ葉21-30 (0764-32-9433)		成 宮 憲 一	604 京都市中京区聚楽廻中町45 小谷春夫方 (075-841-3281)
	山村 雅 宏	183 東京都府中市西府町1-30 日立武蔵清明寮 (0423-63-7449)		冬 木 隆	606 京都市左京区北白川蔦町2 植実方
162	木野 高 史	227 横浜市緑区藤ヶ丘2-1 富士 通第3藤ヶ丘寮317		164 山本 博 士	665 宝塚市中筋山手1丁目4-2 (0797-88-3540)
	神野 厚 英	560 大阪府豊中市南桜塚2-9-17		吉 田 浩	211 川崎市中原区井田仲ノ町347 第一花栄荘
	中江 政 美	ホンダエンジニアリング(株) (0429-53-4111) 350-13埼玉県狭山市入間川1-4 -2 杉田方 (0429-52-2708)		和 田 武 史	590 堺市神石市之町127 (0722-61-8963)
162	藤本 靖	四国電力香川支店高松電力所 761-01 香川県木田郡牟礼町大町 1415-71 (0878-45-1613)			

頁	氏名	正	誤
58	庄 村 鳳 一	庄 村 鳳 一	床 村 鳳 一
77	樋 田 寔	樋 田 寔	樋 口 寔
90	渡 部 和	渡 部 和	渡 辺 和
133	山 本 隆 英	山 本 隆 英	山 本 隆 秀
134	西 田 泰 裕	工学博士 西田泰裕 勤務先 電話番号 (06-461-1031)	(03-203-2121)
137	櫛 木 好 明	櫛 木 好 明	櫛 木 好 明
146	竹 田 三 生	松 井 三 生 (旧姓竹田) 712 倉敷市水島青葉町2の3の33	竹 田 三 生
195	板 倉 定 男	板 倉 定 男	林 倉 定 男

昭6卒 大西 正一
昭10卒 梅本 忠夫
昭3卒 中村 俊介
大14卒 樋口竹太郎
講大8卒 坂井次三郎
以上の方々が、ご逝去なさいま
した。謹んで哀悼の意を表しま
す。

計
報

50 50 50 49 50
1 1 2 12 2
25 21 26 8